

開講年度：2026

科目名	頭頸部 Head and Neck	題目（副題）	耳鼻咽喉科頭頸部外科学、歯科口腔外科学、形成再建外科学、画像医学、分子細胞生理学、分子病理学
担当教員、教員連絡先内線	工 穰 他	5309	
学年、講義期間、曜日・時限	3 前期（随時）	月曜・1時限 月曜・2時限 月曜・3時限 火曜・1時限 火曜・2時限 火曜・3時限 水曜・1時限 水曜・2時限 水曜・3時限 水曜・4時限 水曜・5時限 水曜・6時限 木曜・1時限 木曜・2時限 木曜・3時限 木曜・4時限 木曜・5時限 木曜・6時限 金曜・1時限 金曜・2時限 金曜・3時限	
単位数、講義室	1 単位 医学科第2臨床講堂	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄ 授業達成目標 M21カリ・医学 患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。 疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。 M26カリ・医学、M25カリ・医学、M24カリ・医学、M23カリ・医学、M22カリ・医学 ≪基礎的・専門的な知識と技能≫疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。 ≪問題解決力≫患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して適切に判断し必要な行動ができる。		
臨床実習前の到達目標	・患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を説明できる。 ・必要な課題を発見し、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な解決方法を見出すことができる。 ・講義、教科書、検索情報などを基に、自らの考えを示すことができる。 ・必要最低限の病歴を聴取し、基本的な身体診察を行うことができる。 ・適切な態度で診断治療を行うことができる。 ・問題志向型医療記録形式を用い、最低限の診療録を作成できる。 ・コミュニケーションの方法と技能およびその及ぼす影響を概説できる。 ・良好な人間関係を築くことができる。 ・患者・家族に共感することの重要性について概説できる。 ・チーム医療の意義を説明できる。 ・チーム医療における医師の役割を説明できる。 ・医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。 ・医療現場における報告の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる。 ・医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。 ・生命科学の講義や実習から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断の深化につなげることができる。 ・生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。 ・信州の医療圏の特徴を説明できる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	聴覚機能検査、平衡機能検査、外耳・中耳疾患、鼓室形成術、内耳疾患、人工内耳、鼻・副鼻腔疾患、咽頭・喉頭疾患、気管食道疾患、頭頸部腫瘍、形成再建外科、創傷、皮膚移植、皮弁、画像診断、放射線治療、病理診断、口腔悪性腫瘍、口腔良性腫瘍、口腔外傷・炎症、顎変形症の外科的手術、顎嚢胞、オーラルケア、顎顔面補綴、顎顔面機能回復 実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	D-14)耳鼻・咽喉・口腔（頭頸部）の構造と機能を理解し、耳鼻・咽喉・口腔系疾患の症候、病態、診断と治療を理解する。 D-14-1) 構造と機能 1外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 4喉頭の機能と神経支配を説明できる。 5平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 6味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 7咀嚼、発音、嚥下などの口腔機能を説明できる。 D-14-2) 診断と検査の基本 1聴力検査と平衡機能検査を説明できる。		

授業の概要・一般目標	2味覚検査と嗅覚検査を説明できる。 3耳鼻・咽喉・口腔系の画像検査を説明できる。 4耳鼻・咽喉・口腔系の病理検査を説明できる。 5歯を含んだ口腔の検査と診断を説明できる。 D-14-3) 症候 D-14-3)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系に関する主要症候（気道狭窄、難聴、鼻出血、咽頭痛、開口障害と反回神経麻痺(嚥声)、歯痛、口腔乾燥) D-14-3)-(2) その他の症候 1めまい 2嚥下障害・誤嚥 D-14-4) 疾患 D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患 D-14-4)-(2) 耳鼻・咽喉・口腔系の腫瘍性疾患 D-14-4)-(3) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患の再建 D-14-4)-(4) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患の腫瘍病理 D-14-4)-(4) 歯科疾患、顎変形症
テキスト，教材，参考書	1) 適宜プリントなどの教材を配布する 2) 切替一郎 新耳鼻咽喉科学 南山堂 3) 波利井清紀監修 TEXT形成外科学 改訂3版 南山堂 4) 平林慎一監修、鈴木茂彦、岡崎睦編 標準形成外科学 第7版 医学書院 5) 口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本、クインテッセンス出版株式会社
履修上の注意	短時間で構わないので、簡単に教科書を一読すれば効果的である。
授業の形式，視聴覚機器等の活用	主にプリント，スライド，ビデオを用いて講義する。 疾患については具体的に症例を提示して解説する。
成績評価の方法	主に試験で評価する。 中間試験50%、期末試験50%で評価する。 試験では、本授業の学修目標への到達度および今後に必要な知識が定着しているかを確認します。
成績評価の基準	90－100点：秀 80－89点：優 70－79点：良 60－69点：可 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	参考書の該当範囲を予習しておくこと。 本授業の単位修得には3時間の時間外学修が必要です。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問，相談への対応）	頭頸部の扱う領域・疾患は非常に幅広く、内科的、外科的、多岐に渡っています。また21世紀は「感覚器の時代」とも言われ、再生医療や人工臓器などによる治療が期待される領域でもあります。 多くの学生諸君が興味を持って授業に参加し、楽しみ、理解を深め、そして将来の頭頸部領域疾患を担う人材に育ってくれることを期待します。 オフィスアワー：毎週木曜日15時～17時頃

授業日	第 1 回	6月25日(木 1)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 1外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 4喉頭の機能と神経支配を説明できる。 5平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 6味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 7咀嚼、発音、嚥下などの口腔機能を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	頭頸部領域の感覚総論を学ぶ			
担当	田淵 克彦 (分子細胞生理学)			
授業日	第 2 回	6月25日(木 2)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 1外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 4喉頭の機能と神経支配を説明できる。 5平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 6味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 7咀嚼、発音、嚥下などの口腔機能を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	頭頸部の体性感覚について学ぶ			
担当	田淵 克彦 (分子細胞生理学)			
授業日	第 3 回	6月25日(木 3)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 1外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	聴覚と平衡覚について学ぶ			
担当	田淵 克彦 (分子細胞生理学)			
授業日	第 4 回	6月25日(木 4)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 2聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 5平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	視覚について学ぶ			
担当	田淵 克彦 (分子細胞生理学)			
授業日	第 5 回	6月25日(木 5)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 3口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 6味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	嗅覚と味覚について学ぶ			
担当	田淵 克彦 (分子細胞生理学)			
授業日	第 6 回	6月25日(木 6)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	自習			
担当				
授業日	第 7 回	6月26日(金 1)	SB0s	E-7-1,2,3)口唇口蓋裂の成因、診断、治療について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	口唇口蓋裂について学ぶ。			
担当	藤田 賢吾 (形成再建外科学)			
授業日	第 8 回	6月26日(金 2)	SB0s	D-13-1,4)眼瞼眼窩の構造と機能、疾患について説明できる。 E-7-3)先天性眼瞼下垂症の成因、診断、治療について説明できる。 ○眼瞼眼窩の解剖が分かる。 ○眼瞼の機能が分かる。 ○眼瞼下垂症の診断と治療について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	眼瞼、眼窩について学ぶ。			
担当	秋元 証人 (形成再建外科学)			
授業日	第 9 回	6月26日(金 3)	SB0s	D-14-1,2,4)耳介の構造、診断、疾患について説明できる。 ○耳介の体表解剖が分かる。 ○耳介の先天性疾患が説明できる。 ○耳介の外傷について説明できる
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	耳介について学ぶ。			
担当	高清水 一慶 (形成再建外科学)			
授業日	第 10 回	6月29日(月 1)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 ②聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 ⑤平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 D-14-2) 診断と検査の基本 ①聴力検査と平衡機能検査を説明できる。 D-14-3)-(2) その他の症 ①めまい
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	平衡生理と平衡機能検査について学ぶ			
担当	塚田景大 (耳鼻咽喉科頭頸部外科学)			

授業日	第 11 回	6月29日(月 2)	SB0s	D-14-4) 疾患
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患
GI0	めまいの疾患と診断について学ぶ			③末梢性めまいと中枢性めまいを鑑別し、治療を説明できる。
担当	塚田景大（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			④良性発作性頭位眩暈症の症候、診断と治療を説明できる。
授業日	第 12 回	6月29日(月 3)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	自習			
担当				
授業日	第 13 回	6月30日(火 1)	SB0s	D-14-1) 構造と機能
講義室	医学科第2臨床講堂			①外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。
GI0	耳鼻咽喉科頭頸部外科全般、及び最近のトピックスを学ぶ（序論）耳の解剖と聴覚生理、聴覚機能検査を学ぶ（前編）			②聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
担当	工 穰（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			D-14-2) 診断と検査の基本
				①聴力検査と平衡機能検査を説明できる。
				D-14-3) 症候
				D-14-3)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系に関する主要症候
				①気道狭窄、難聴、鼻出血、咽頭痛、開口障害と反回神経麻痺（嗄声）をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
				○耳鼻咽喉科の一般的な疾患について症候、診断、治療を説明できる。
授業日	第 14 回	6月30日(火 2)	SB0s	D-14-1) 構造と機能
講義室	医学科第2臨床講堂			①外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。
GI0	耳の解剖と聴覚生理、聴覚機能検査を学ぶ（後編）			②聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
担当	工 穰（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			D-14-2) 診断と検査の基本
				①聴力検査と平衡機能検査を説明できる。
授業日	第 15 回	6月30日(火 3)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	外部講師による特別講義			
担当	松浦 一登（国立がん研究センター東病院 頭頸部外科科長）			
授業日	第 16 回	7月 1日(水 1)	SB0s	D-14-1) 構造と機能
講義室	医学科第2臨床講堂			③口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
GI0	鼻アレルギーについて学ぶ			D-14-4) 疾患
担当	森健太郎（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患
				⑦アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる。
				○鼻アレルギーの発症メカニズムと診断について説明できる。
				○鼻アレルギーの治療について説明できる。
授業日	第 17 回	7月 1日(水 2)	SB0s	D-14-1) 構造と機能
講義室	医学科第2臨床講堂			③口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
GI0	鼻・副鼻腔の解剖と生理について学ぶ			⑥味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
担当	森健太郎（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			
授業日	第 18 回	7月 1日(水 3)	SB0s	D-14-4) 疾患
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患
GI0	鼻・副鼻腔の疾患について学ぶ			⑤鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。
担当	森健太郎（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			⑥副鼻腔炎（急性、慢性）の病態と治療を説明できる。
授業日	第 19 回	7月 8日(水 1)	SB0s	D-14-1)③
講義室	医学科第2臨床講堂			歯・顎・口腔の解剖および機能について理解し、説明できる。
GI0	歯科口腔の解剖、機能を理解する。			○口腔の特殊性を説明できる。
担当	栗田 浩、酒井洋徳（歯科口腔外科学）			教科書（口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本） P14-41 の範囲

授業日	第 20 回	7月 8日(水 2)	SB0s	D-14-2)②
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-3)-(1)①
GI0	歯科口腔外科の検査法、 歯科口腔外科疾患の症状、症候、歯科疾患について学ぶ。			歯科口腔外科の検査法を理解し、説明できる。 歯科口腔外科疾患の症状、症候を理解し、説明できる。 歯科疾患について理解し、診断と治療を説明できる。
担当	栗田 浩， 酒井洋徳（歯科口腔外科学）			教科書（口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本） P44-92 の範囲
授業日	第 21 回	7月 8日(水 3)	SB0s	D-14-4) 疾患
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-4)-(2) 腫瘍性
GI0	頭頸部領域の画像診断について学ぶ			①口腔・咽頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 ②喉頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。
担当	雄山一樹（画像医学）			○ 頭頸部領域の正常画像について説明できる。 ○ 頭頸部領域疾患の画像所見について説明できる。
授業日	第 22 回	7月13日(月 1)	SB0s	D-14-4) 疾患
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患
GI0	外耳・中耳疾患と鼓室形成術について学ぶ			①滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の病因、診断と治療を説明できる。
担当	吉村豪兼（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			○ 外耳・中耳の疾患の診断・治療を説明できる。 ○ 特に鼓室形成術について分類と適応を説明できる。
授業日	第 23 回	7月13日(月 2)	SB0s	D-14-4) 疾患
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患
GI0	内耳疾患と人工内耳について学ぶ			②伝音難聴と感音難聴、迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療を説明できる。
担当	吉村豪兼（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			○ 内耳疾患の診断・治療について説明できる。 ○ 人工内耳の適応、手術、（リ）ハビリテーションについて説明できる。
授業日	第 24 回	7月13日(月 3)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	自習			
担当				
授業日	第 25 回	7月13日(月 4)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	中間試験			
担当	鬼頭良輔、工 穰（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			
授業日	第 26 回	7月15日(水 1)	SB0s	D-14-1) 構造と機能
講義室	医学科第2臨床講堂			③口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
GI0	口腔・咽頭の解剖生理と疾患を学ぶ			⑥味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
担当	工 穰（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			D-14-2) 診断と検査の基本 ②味覚検査と嗅覚検査を説明できる。 D-14-4) 疾患 D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患 ⑧扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる。 ○ 口腔・咽頭の局所解剖と生理を説明できる。 ○ 口腔・咽頭疾患の診断と治療について説明できる。
授業日	第 27 回	7月15日(水 2)	SB0s	D-14-1) 構造と機能
講義室	医学科第2臨床講堂			④喉頭の機能と神経支配を説明できる。
GI0	喉頭の解剖生理と疾患を学ぶ			D-14-3)-(2) その他の症 ②嚥下障害・誤嚥 ○ 喉頭疾患の診断と治療について説明できる。 ○ 発声のメカニズムとその障害・治療について説明できる。 ○ 嚥下のメカニズムとその障害・治療について説明できる。
担当	岩佐陽一郎（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			
授業日	第 28 回	7月15日(水 3)	SB0s	D-14-4) 疾患
講義室	医学科第2臨床講堂			D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患
GI0	気管・気管支・食道疾患および顔面神経麻痺について学ぶ			⑩気管切開の適応を説明できる。 ⑪外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物を説明し、除去法を説明できる。 ○ 気管・気管支・食道疾患の診断と治療を説明できる。 ○ 顔面神経の解剖・機能について説明できる。 ○ 顔面神経麻痺の診断と治療について説明できる。
担当	岩佐陽一郎（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）			

授業日	第 29 回	7月15日(水 5)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	自習			
担当				
授業日	第 30 回	7月15日(水 6)	SB0s	D-14-4) 疾患 D-14-4)-(2) 腫瘍性 ①口腔・咽頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 ②喉頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 E-3-5) 各 論 ⑬耳鼻・咽喉・口腔系：舌癌、咽頭癌、喉頭癌 ○ 頭頸部腫瘍に対する放射線治療について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	頭頸部腫瘍の診断と治療について学ぶ (4)			
担当	小岩井慶一郎 (画像診断学)			
授業日	第 31 回	7月17日(金 1)	SB0s	○顎口腔領域の歯性炎症について理解し、説明できる。 ○顎口腔領域の先天異常・変形症について理解し、説明できる。 ○顎口腔領域の外傷について理解し、説明できる。 ○顎口腔領域の粘膜疾患について理解し、診断と治療を説明できる。 ○顎口腔領域の嚢胞性疾患について理解し、説明できる。 ○顎口腔領域の腫瘍について理解し、診断と治療を説明できる。 教科書 (口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本) P92-144 の範囲
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	歯性炎症、先天異常・変形症、外傷、粘膜疾患、嚢胞性疾患、顎口腔領域の腫瘍について学ぶ			
担当	栗田 浩, 酒井洋徳 (歯科口腔外科学)			
授業日	第 32 回	7月17日(金 2)	SB0s	D-7-1)⑬唾液腺疾患について理解し、診断と治療を説明できる。 D-14-4)-(1)⑨歯科疾患と全身疾患との関連を理解し、説明できる。 E-8-1)③⑦摂食・嚥下障害を理解し、説明できる。 ○歯科心身症を理解し、説明できる。 ○顎関節の疾患について理解し、診断と治療を説明できる。 ○顎口腔領域の神経疾患について理解し、診断と治療を説明できる。 教科書 (口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本) P146-186 の範囲
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	唾液腺疾患、顎関節疾患、神経疾患、歯科心身症、摂食・嚥下障害 について学ぶ。 全身と歯科疾患の関連について学ぶ。			
担当	栗田 浩, 酒井洋徳 (歯科口腔外科学)			
授業日	第 33 回	7月17日(金 3)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	自習			
担当	工 稔			
授業日	第 34 回	7月22日(水 1)	SB0s	D-14-1) 構造と機能 ③口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 ④喉頭の機能と神経支配を説明できる。 ○ 頭頸部腫瘍の基本的な知識について説明できる ○ 上咽頭・中咽頭・下咽頭腫瘍の診断と治療について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	頭頸部腫瘍の診断と治療について学ぶ (1)			
担当	鬼頭良輔 (耳鼻咽喉科頭頸部外科学)			
授業日	第 35 回	7月22日(水 2)	SB0s	D-14-4) 疾患 D-14-4)-(2) 腫瘍性疾患 ①口腔・咽頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 ○ 口腔腫瘍・下顎腫瘍の診断と治療について説明できる。 ○ 上顎癌の診断と治療について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	頭頸部腫瘍の診断と治療について学ぶ (2)			
担当	栗田 浩, 酒井洋徳 (歯科口腔外科学)			
授業日	第 36 回	7月22日(水 3)	SB0s	D-14-4) 疾患 D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患 ⑫唾液腺疾患を列举できる。 D-14-4)-(2) 腫瘍性疾患学修目標： ①口腔・咽頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 ②喉頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 ○ 喉頭癌、舌癌、唾液腺腫瘍の診断と治療について説明できる。 ○ 頸部郭清術について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	頭頸部腫瘍の診断と治療について学ぶ (3)			
担当	岩佐陽一郎(耳鼻咽喉科頭頸部外科)			
授業日	第 37 回	7月22日(水 4)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	自習			
担当				
授業日	第 38 回	7月22日(水 5)	SB0s	D-14-4) 疾患 D-14-4)-(2) 腫瘍性 ①口腔・咽頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 E-3-5) 各 論 ⑬耳鼻・咽喉・口腔系：舌癌、咽頭癌 ○ 頭頸部腫瘍摘出後の再建術について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	頭頸部腫瘍切除後の再建手術について学ぶ			
担当	柳澤大輔 (形成再建外科学)			

授業日	第 39 回 7月22日(水6)	SB0s	D-14-4)-(2) ①口腔・咽頭癌の代表的な組織型とその病理学的特徴を説明できる。 ②喉頭癌の代表的な組織型とその病理学的特徴を説明できる。 ③鼻副鼻腔癌の代表的な組織型とその病理学的特徴を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂		
GI0	頭頸部腫瘍の病理について学ぶ。 ○授業のふりかえりを入力する。		
担当	上原 剛（病態解析診断学）		
授業日	第 40 回 7月29日(水2～3)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂		
GI0	期末試験		
担当	鬼頭良輔、工 稔（耳鼻咽喉科頭頸部外科学）		